

編集後記

今号から通巻 38 号の歴史をもつ『ジェンダー研究』は大幅にリニューアルすることになった。お茶の水女子大学内にととまらず、学外、国外まで応募を募り、より学際的な、国際的な学術雑誌を目指すことになったのである。募集告知をする前から投稿に関して問い合わせもあり、ジェンダー研究所（以下 IGS）の板井講師が募集要項のポスターやホームページなどデザイン下さり、またスタッフ一同総出でポスター貼りや SNS、郵送などで告知活動を行い、その結果、8 本の投稿論文、5 本の特集論文が寄せられた。本学関係者 6 名、学外から 7 名からの論文である。そのうち、厳正な査読審査を受け、編集委員会が承認した掲載決定の投稿論文は 2 本、特集論文は 4 本である。

今号から査読者も学外、国外の専門家に加わっていただいた。査読依頼の際、本学ゆかりの研究者と IGS がこれまで培った国際ネットワークに随分助けられた。IGS の歴代の特別招聘教授をはじめ、IGS が主催したシンポジウムやセミナーを通じて世界の研究者と繋がることができた。様々なネットワークを通じて査読をご担当下さった先生方に御礼を申し上げる。

あらためて日頃の真摯な研究活動から人脈が広がっていく大切さをこの仕事を通じて学んだ。このネットワークをますます広げ、つないでいき、今後の『ジェンダー研究』の発展に貢献することが現在の事務局の役目であると、完成した原稿を眺め考えている。

今号はいろいろな面で初めてであったことから、至らない点が多々あり、反省することもあるが、石井クンツ所長、申編集長と実務委員メンバー（仙波 RF、和田 AA）、IGS のスタッフの皆様にご助けいただきながらなんとか刊行にこぎつけた。日本語校正者（長田孝子氏、宮内裕美氏）、英語校正（エナゴ様）、印刷・製本をご担当下さった(株)よしみ工産様、そして今回雑誌のリニューアルのシンボルともなる美しい表紙のデザインを担当下さった塩飽晴海氏、皆様に心より御礼申し上げます。本当に多くの皆様に支えられてできた『ジェンダー研究』 21 号である。

（お茶の水女子大学 ジェンダー研究所 特任リサーチフェロー 佐野潤子）

お茶の水女子大学ジェンダー研究所発行の学術雑誌『ジェンダー研究』第 21 号がようやく完成した。発行に向けて作業に取り組んだこの 1 年を振り返ると、非常に感慨深いものがある。今号から新たな編集長を迎え、『ジェンダー研究』を一新することになり、これまで学内関係者に限定していた投稿資格を、国内外を問わず、学外にも広げることになったため、編集事務局も拡大することになった。そして、それに伴い、私も、今号から『ジェンダー研究』の編集実務スタッフの一人として雑誌づくりに参加することになった。

学外にも投稿資格を広げたため、投稿のしかたから、編集方針、編集規定、投稿規定、執筆要項、雑誌のデザイン等に至るまで、すべてを新しくすることになり、申編集長、佐野事務局長、和田スタッフと私の4人で、何度も実務スタッフ会議を重ねたことを懐かしく思う。私自身は、雑誌づくりに関わるのは初めてであったが、書評全般の実務作業を担当することになり、至らない点多々あったと思うが、多くの方々のお力を借りて、作業をすすめることができた。特に、申編集長、編集委員会の委員の先生方、佐野事務局長、出版社での編集経験もある実務スタッフの和田氏、書籍の手配などを手伝ってくれたIGSのスタッフには、とても助けていただいた。心から感謝を述べたい。

今号から、ジェンダー研究のトレンドを示すためにも、なるべく数多くの書評を掲載するという方向性が編集委員会で示され、編集委員の先生方やジェンダー研究所と親交のある研究者の方々から、書評の候補として様々な書籍をあげていただき、今回はその中から11本の書籍を選定した。そして、委員や研究者から評者の方々をご推薦いただき、原稿提出までの時間が短かったにもかかわらず、稲田尚子氏、岩本美砂子氏、金井郁氏、菊池夏野氏、田村哲樹氏、鳥山純子、林美子氏、ホーン・川嶋瑤子氏、皆川満寿美氏、森明子氏、山本千晶氏（あいうえお順）が、心よく依頼を受けて下さった。どの書評も評者から興味深い分析が加えられ、読者の関心を引くに違いない。評者の皆様には本当に心から感謝申しあげたい。

最後に、記念すべき『ジェンダー研究』第21号の作業に関わって、私自身、多くのことを学ぶことができた。こうした機会を与えてくださった申編集長に感謝いたします。

（お茶の水女子大学 ジェンダー研究所 特任リサーチフェロー 仙波由加里）

編集実務スタッフとして、本文のレイアウトや、編集スケジュール進行サポートなどを担当させていただきました。【端正な美しさを纏った国際的な学術誌】の刊行を目指した道程は、平坦ではありませんでしたが、充実した素晴らしい日々でありました。

伝統ある『ジェンダー研究』の歴史的とも言える転換点において、スタッフに加えて下さり、微力ながらもお手伝いさせていただく機会を与えて下さった、申編集長に、心より感謝申し上げます。実務スタッフの一員として迎えてくださった、佐野RF、仙波RF、様々な面で助けて下さったIGSの皆さまに、心からお礼申し上げます。

新たな一步を踏み出した『ジェンダー研究』のさらなる進化発展を願ってやみません。

（お茶の水女子大学 ジェンダー研究所 アカデミック・アシスタント 和田容子）